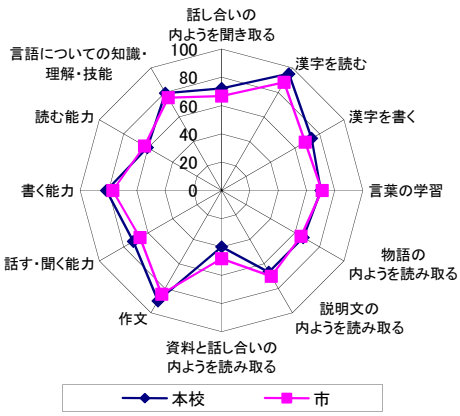
宇都宮市立昭和小学校 第５学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	72.2	66.6
	漢字を読む	95.2	88.4
	漢字を書く	73.5	68.2
	言葉の学習	70.2	71.0
	物語の内ようを読み取る	66.7	64.9
	説明文の内ようを読み取る	66.7	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	39.9	48.3
	作文	90.2	84.9
観点別	話す・聞く能力	72.2	66.6
	書く能力	81.5	77.1
	読む能力	60.7	63.0
	言語についての知識・理解・技能	79.5	75.8



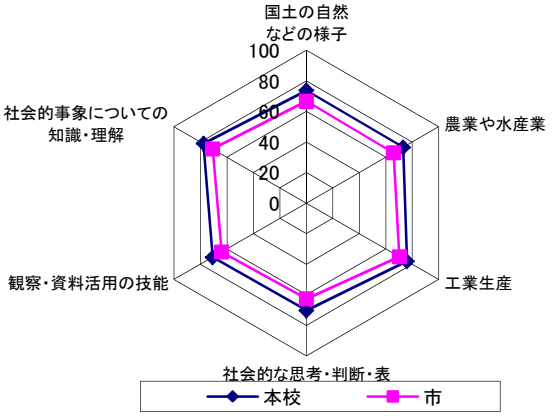
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・平均正答率は72.2%で，市の平均正答率を5.6%上回っていて，身に付いているといえる。 ・話し手の意図を考えて内容を聞き取る問題の正答率は92.9%でよくできているが，市の平均正答率より1.9%低かった。話し方の工夫を考えながら話の内容を聞き取ったり，司会者の役割を理解して，適切な言葉で話したりする問題では市の平均正答率より8～10%高かった。	・今後も1分間スピーチなどを継続し，国語の授業を中心に，他教科・学級活動等においても，自分の考えをしっかり伝えられるようにするとともに，相手の意図を考えて聞いたり自分の考えと比べて聞いたりする習慣をつける。また，話の内容に沿って自分の考えをまとめて述べられるようにする。 ・話し合い活動では，どの児童にも司会を経験させ，話し手の意見の類似点や相違点を考えながら聞く習慣を付けさせる。
漢字	・漢字の読み取り，書き取りともに市の平均正答率を5%以上上回っている。 ・読み取りについては，90%以上の正答率でよくできていて，「ふせぐ」の読み取りは100%であった。 ・書き取りについては，全設問とも4年生で履修した問題であった。「外側」の正答率は97..6%とよくできていたが，「残念」「祝う」の正答率は，60%程度と低かった。	・前学年までに学習したことも含めて特に書き取りの練習を重点的に行う。送りがなや仮名遣い，同訓・同音の漢字，同じ部首や似た意味の漢字などに注意して，繰り返し練習を行ったり，ミニテストやまとめのテストを実施したりして，確実に習得できるようにする。 ・読書の奨励や辞書の活用などにより，漢字に触れる機会を増やす。作文や日記を書くときは，辞書を利用して履修した漢字を使うように心がけさせ，漢字のもつ意味を考えながら正しく書くことができるようにさせる。
言葉の学習	・平均正答率は70.2%で，市の平均正答率とほぼ同程度であり，全体的には身に付いているといえる。 ・句読点の打ち方については正答率も高く，理解しているといえる。しかし，漢字の成り立ちやことわざの使い方の問題の正答率がそれぞれ50%，66.7%と低かった。	・引き続き，文章問題の読解や練習問題により，修飾語や被修飾語，接続詞などについての定着を図っていく。 ・ことわざや慣用句などの授業では，言葉について興味・関心をもてるような授業の展開を図り，知識を定着させていく。 ・文を書くときに漢字辞典を活用して熟語や類義語，対義語などの正しい意味をとらえさせ，言語感覚を養っていく。
物語の内ようを読み取る	・平均正答率は66.7%で，市の平均正答率を1.8%上回っている。 ・場面の情景や登場人物の心情を読み取る問題の正答率は市の平均を上回り良好であるが，場面の描写をとらえて表現の特徴をとらえる設問では，市の平均を下回っていた。	・文学的文章では，描かれている登場人物の正確や境遇，状況，気持ちや情景の移り変わりなどについて，優れた表現の仕方を味わいながら，丁寧に読み取っていくようにする。 ・読書を奨励し，読書を通して文学的な文章に親しみ，感想を述べ合ったり本を紹介し合ったりするような活動を計画的に行い，読解力を伸ばしていくようにする。
説明文の内ようを読み取る	・平均正答率は66.7%で，市の平均正答率を3.4%下回っている。 ・文章の構成を読み取ることはほぼできていたが，文章の構成を考えながら、内容を的確に読み取る問題の正答率が54.8%と特に低かった。	・説明的文章の指導では，文章の組み立てや中心となる語句や文に着目させて要点をまとめさせたり，指示語や接続語の役割に目を付けさせたりするなど，文の主旨や内容を理解できるように丁寧に指導する。 ・調べるための図書や課題を解決するための本を読んだりするなど，様々な目的により本を選んで読書することを推進していく。
資料と話し合いの内ようを読み取る	・平均正答率は39.9%と低く，市の平均正答率を約8%下回っており，二つの新聞の類似点や相違点を読み取る力が身に付いていない。 ・バスケットボール大会の結果を知らせる二つの学級新聞を読み比べる問題であるが，与えられた資料を読み取り，求められている情報を的確に取り出す問題の正答率が32.1%と市の平均より約8%下回っていた。	・物語や説明文だけでなく，様々な文章や問題に触れる機会を多くもたせ，資料と問題文の関係を正しく読み取れるような活動を充実していく。 ・日頃から新聞記事を授業の中で活用し，見出しと内容の関連や使用している資料などに着目して読み取らせたり，記事について自分の考えをもちながら読ませたりさせる。
作文	・平均正答率は90.2%と高く，市の平均正答率より5.3%上回っている。 ・「学校の様子を知ってもらうため，学校行事について各家庭に知らせる」内容の問題であった。ほとんどの児童が指定された長さで，自分の意見とその理由を区別して書くことができていたが，二段落構成で文章を書くことは市の平均を上回っているものの76.2%と少し低かった。	・今後も，いろいろな場面や機会を通して，自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし，目的に応じた文章表現の技能を高めていく。 ・他教科での学習のまとめに，新聞やパンフレットを作成する機会を設け，読み手を意識しながら伝えたい内容をまとめる力を付けさせる。また，読み手の感想などを伝えあったりして，文章での表現活動に意欲的に取り組ませる。

宇都宮市立昭和小学校 第５学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	73.7	66.7
	農業や水産業	73.0	65.8
	工業生産	76.0	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.2	62.7
	観察・資料活用の技能	70.9	64.1
	社会的事象についての知識・理解	77.9	70.9



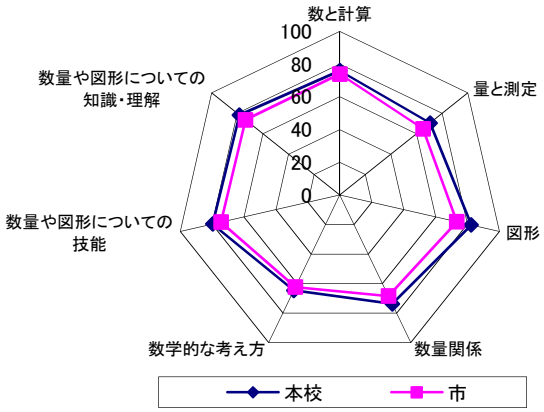
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	・平均正答率は73.7%で，市の平均正答率より7%上回っている。 ・世界の大陸・海洋の名称や位置の正答率は90%を超え，理解しているといえるが，梅雨や日本の特色ある気候について資料をもとに判断する問題の正答率が約40%と低く，身に付いていなかった。	・世界や我が国の様子を理解するために，日常的に地図帳や地球儀などで調べる活動を行ったり，白地図にまとめたり，ミニテストを行ったりして，大陸や国の位置や名称などの知識の定着を図っていく。 ・デジタル教材を活用したりして，児童が興味・関心をもって取り組めるような授業の展開を図る。
農業や水産業	・平均正答率は73.0%で，市の平均正答率を7.2%上回っている。 ・日本の米作りの工夫や漁業について資料をもとに判断する問題の正答率は90%以上と市の正答率より高いが，漁業についてグラフから指摘する問題は市の平均を上回っているものの，約48%と低かった。 ・日本の食料生産問題については，自給率に関する正答率は約60%であったが，市の平均より約14%上回っていた。	・水産業については，本県児童において身近な問題ではではなく，また見学や体験が困難なので，理解しがたいと思われる。教科書や資料集などの写真だけでなく，デジタル教材を活用したりして関心を高めて，漁業方法や工夫について知識の習得を図れるようにする。 ・普段の授業において，グラフや資料から読み取れることをノートにまとめたり発表させたりして，言語化させて充実を図る。
工業生産	・平均正答率は76%で市の平均正答率より，5.8%高い。 ・自動車工場の様子や工夫については全設問ともに正答率が80%を超え，市の平均より5～10%高く，理解しているといえる。 ・工業地帯の名称の問題の正答率は92.9%と市よりも約38%高かったが，複数の資料をもとに，日本の貿易についての学習問題を作る設問の正答率は14.3%と市の平均より約7%低かった。	・今年度はクボタ工場に見学に行き，工場での生産の仕方や様子に興味をもち意欲的に授業に取り組んでいたため，知識・理解においてその効果があったと思われる。今後も児童が関心をもち，意欲的に取り組めるような授業の展開を図っていく。 ・複数のグラフから自分の意見を述べるために必要な資料を選択するなどの学習活動を通して，社会的思考を高めていく。

宇都宮市立昭和小学校 第５学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	75.9	73.9
	量と測定	70.5	65.0
	図形	82.3	73.2
	数量関係	73.8	68.5
観点別	数学的な考え方	64.6	62.4
	数量や図形についての技能	79.6	74.4
	数量や図形についての知識・理解	78.3	73.6



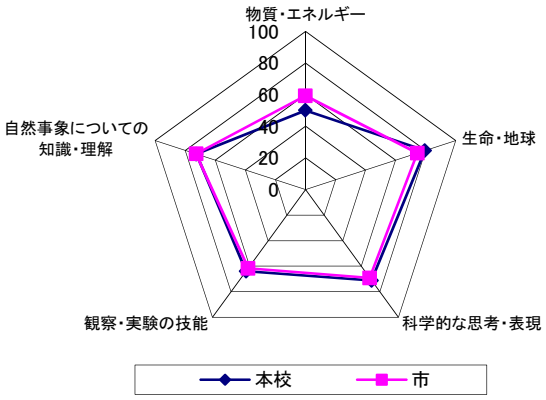
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は約76%で市の平均をやや上回っている。 ・設問別に見ると「分数のたし算・ひき算」「小数と整数のかけ算」は正答率が90%を超えており，おおむねよくできていたが，「小数のかけ算」「小数の除法の文章問題」は60%台とやや劣る。 ・「分数と小数の大小比較」は正答率が約30%と他に比べて低かった。	・小数・分数の表し方と相互の関係及びわり算との関係を復習し，小数を分数に，分数を小数に直す学習の定着を図る。 ・文章題に重点的に取り組ませ，文章を読み内容に合った正しい式が立てられるようにする。 ・「小数×小数」の位取りについて復習し，積に正しく小数点を打てるように復習する。
量と測定	・平均正答率は約70%で市の平均を5ポイントほど上回っている。 ・設問別に見ると「単位量当たり大きさ」の文章題で，解き方を記述する箇所の正答率が約40%と低かった。	・「単位量当たりの大きさ」は，問題を解く上で何を単位としているのか理解するのが難しいので，重点的に復習するとともに，正解を求める過程を図や文で説明する機会を授業の中で増やし，考え方を説明できるようにしていく。
図形	・平均正答率は約80%であり，おおむね身に付いていると言える。 ・設問別に見ると「多角形の内角の和」「垂直・平行と四角形」「合同な図形」等，平面に関する問題は比較的よくできていたが，「直方体の展開図から，ある辺と垂直な面」を考える，立体に関する問題については正答率が低かった。	・「四角形の性質」や「合同な図形の性質」，「多角形の内角の和」などについて復習し，更なる定着を図る。 ・直方体や立方体の辺や面の垂直・平行の位置関係については重点的に復習し，定着を図る。
数量関係	・平均正答率は約74%で市の平均を上回っており，ほぼ身に付いていると言える。 ・設問別に見ると「計算のきまり」に関する問題は比較的よくできていたが，「変わり方調べ」の伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題については正答率が低かった。	・計算のきまりについて復習し，更なる定着を図る。 ・「変わり方調べ」については，比例について重点的に復習し，定着を図るとともに，それ以外の変わり方についても取り上げ，理解・応用できるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第５学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	50.0	59.3
	生命・地球	79.4	74.4
観点別	科学的な思考・表現	71.3	69.2
	観察・実験の技能	63.9	61.6
	自然事象についての知識・理解	72.5	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は50%で，市の平均正答率よ9.3%下っている。 ・この領域は4年生で学習した内容の設問である。 ・ものの体積と温度や水のすがたなど正答率が50%をきるものが多く，前年での学習が身に付いていないといる。 ・もののあたたまり方の熱の伝わり方の設問では正答率が78.6%であったが市の平均より低かった。	・実験した内容を理解し，知識が身に付いているといえるが，単元の最後のまとめで，学んだことをもう一度振り替えれるようにして知識の定着を図る。 ・今後も児童が興味をもって取り組めるような授業の展開をしていくと同時に，実験結果を予想させたり実験から考えられることを読み取らせたりして，なぜそうなるのか考えさせ，科学的思考力を養っていく。 ・学習した内容を日常生活の中で具体的に考えたりさせたりして，事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。
生命・地球	・平均正答率は79.4%であるが市の平均正答率より5%上回っている。 ・4年生で学習した水のゆくえに付いての設問も市の平均正答率より約5%高く，知識が身に付いているといえる。 ・植物の花のつくり受粉や魚のたんじょうについての設問の正答率は80%を超え，市の正答率を上回っているので，知識が身に付いているといえる。 ・顕微鏡の使い方の問題では，顕微鏡の部分を指摘する問題の正答率は100%であったが，倍率を求める問題は3.1%と，市の正答率より約10%低かった。	・植物やメダカ，顕微鏡の使い方など，観察した内容が身に付いているといえる。しかし，天気の変化や流れる水の働きなど，実際には観察できない教材もあるので，デジタル教材を使ったり，図や絵や表として児童自身に表させたりして理解を深めさせる。 ・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように，授業においても自然や生活の中の事象について，自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ，思考力を育成する。 ・活用問題では，学んだことを生かして身の回りに起こる現象を説明する学習にも取り組んでいく。